

高校中退後の就職状況

高校中退者の就職率は**65%**



55400人中36010人が就職・・・19390人がニート化
(高校中退者数平成22年度)

36010人の主な就職先

- ・アルバイトでの就労
- ・社会保険や雇用保険のない職場での労働
- ・学歴がないため給与が安い
- ・特に女子は性産業へと流れる
- ワーキングプア率の高い職業である。
- 不安定就労 64%・・・23050人
- 正社員採用 36%・・・12960人

子ども・若者への**自立に向けたプログラム**が必要

希望を感じられる世の中に
ちゅらゆい

子どもたちに必要な応援とは？



教育

学力保障
進路相談
不登校支援
...ete

福祉

障がい児支援
生活支援
虐待相談
...ete

労働

職業紹介
職業訓練
職業体験
...ete

すべての子どもに居場所を

kukulu

寄り添い型

○縦割りの支援ではなく、子ども・若者が抱えている背景にしっかりと「**寄り添い型の支援**」を展開しなければ「**負の連鎖**」は断ち切れない。

希望を感じられる世の中に
ちゅらゆい



Kukuluとは…?

kukulu 那覇市委託時代

平成25年那覇市の委託事業として7月スタート
対象者…支援につながらない孤立状態の生活保護
家庭の子どもたちがターゲット。

○利用者数(平成25年度、26年度実績 人数)

- ・31名(3年生18名、2年生9名、1年生4名)
- ・学校復帰した生徒…1名
- ・登校状況が改善した生徒…27名

○3年生の状況(18名)*平成25年度、26年度実績

- ・高校への進学…16名 就職…1名 職業訓練…1名

○卒業後の状況

高校へ通学中…2名 就労…6名 不登校・休学…10名
→不登校・休学の内6名は転入し登校中

★中高生への就学支援・生活支援・就労支援が急務の課題

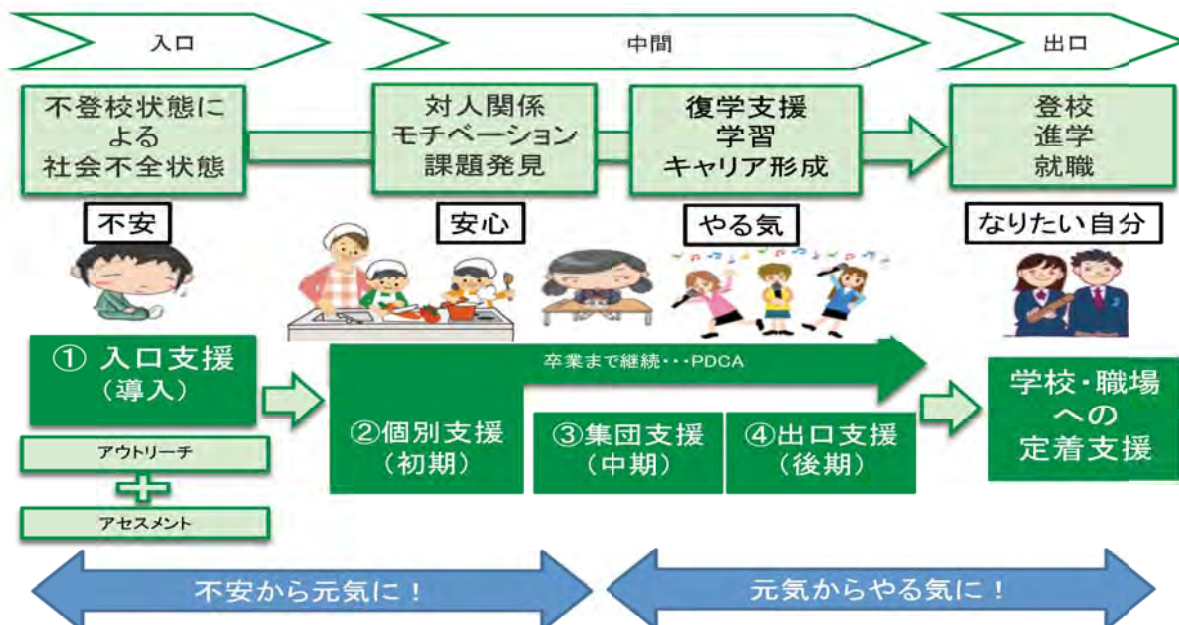


希望を感じられる世の中に
ちゅらゆい

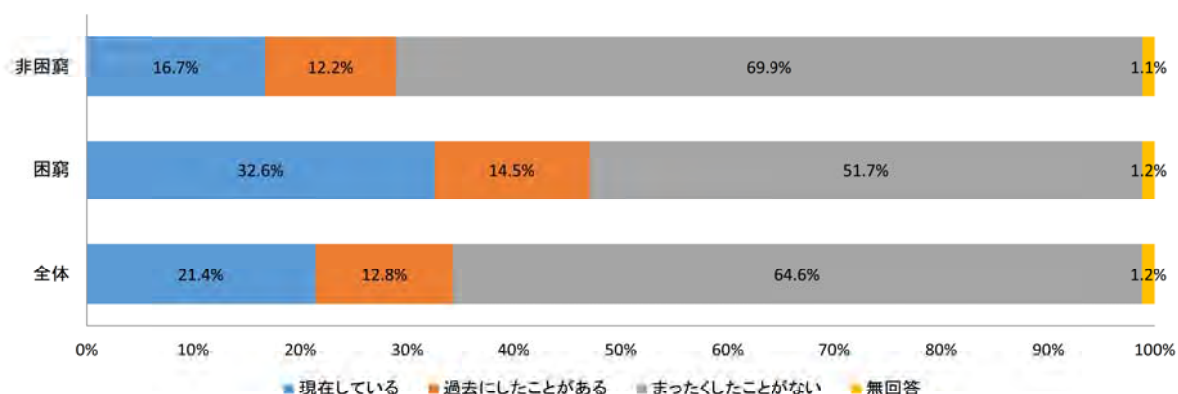
kukuluスタイル…子どもの状況に応じた居場所

kukuluでは、場への定着が難しい子どもたちがターゲットとなる

- 「事業型」(学習支援、学校復帰の適応教室等)の支援ではなく「包括的」支援の実施。
- 年齢は小学生、中学生、高校生まで切れ目のない支援。「アウトリーチ」から「生活支援」「学習支援」「就労支援」まで包括的に支援を実施する。必要に応じて関係機関や企業とも連携するソーシャルワークの視点も必要である。
- 現在は生活保護世帯や生活困窮世帯の子ども43名が利用登録している。



高校に入ってから今までに就労したことがあるか

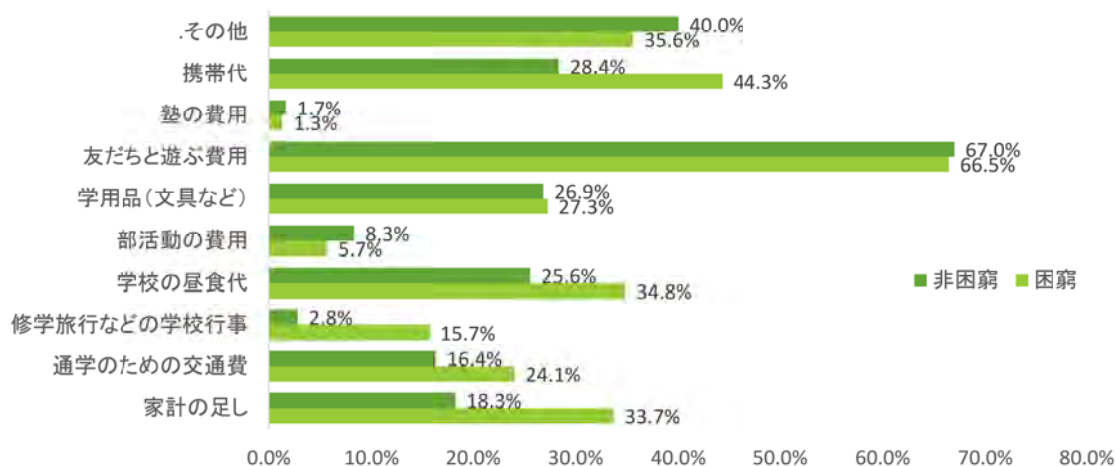


非困窮のアルバイト経験・・・28.9%

困窮のアルバイト経験・・・47.1%

現在働いている・・・15.9%の差異がある

アルバイト収入の使用用途(複数回答)



差異の大きい部分

携帯代・・・15.9ポイント 学校の給食代・・・9.2ポイント

通学のための交通費・・・7.7ポイント 家計の足し・・・15.4ポイント

○高校生活に専念できない環境があるのではないかと？

子ども・若者支援の考え方

個人課題＝自己肯定感のUP、人との関係が構築できる、環境による阻害要因の調整

トレーニング＝教育や訓練で獲得できるもの

→子どもへの支援に置いては「個人課題」がベースにあり「トレーニング」が乗るイメージ。
→多重で複合的な課題を抱えた子どもは「トレーニング」だけ実施しても継続しないことが多い。

例えば...不登校となっている子どもが居たと
して、不登校状態にだけ目を向け登校支援を
実施しても効果がでないことがある。不登校
の背景にある問題に目を向けなければ、状況
は改善しないことが多い。

○「個人課題」への支援を抜きに「トレーニング」
を実施しても効果が薄い、支援が継続しない。



希望を感じられる世の中に
ちゅらゆい